



荒井塾長あいさつ

「これは詐欺ではないか ダークパターンを経験して」



私は最近、老化で目が疲れやすくなってきた。
テレビを観ていたら「一日に一錠飲めば疲れ目に効く」というコマーシャルがあった。販売は昔から知っている目薬業者で、「1ヶ月分 5,000 円の処、お試し 1ヶ月分は 1,000 円で提供」という。これなら信用して良いだろう。良さそうな薬だ、試してみようと 0120xxx へ電話して申し込みました。氏名・年齢・住所・電話番号等を聞かれて、申込みの段になり、少し様子が変わると気づきました。

それは、こちらは1ヶ月分 1,000 円を頼んでいるのに、「4ヶ月x1,000 円です。1ヶ月だけでは通常の 5,000 円です。4ヶ月経ってその後継続購入しない場合は、5ヶ月に入る 7 日前にキャンセルして下さい。キャンセルの連絡がなければ、継続購入となります」。4ヶ月続けて行くうちに、5ヶ月目の1週間前にうっかりしてキャンセルしなければ、通常価格 5,000 円での購入が自動継続になってしまうということでした。

4ヶ月経って、効果があるのかどうか分からないうちに、高い 5,000 円を支払うことになってしまふ。全体の説明を聞いて、途中で何か変だなと気づいて、クレジットカード支払いに進む前に「申し訳ございません。お話がよく理解出来ませんので、この申込みはなかったことにして下さい」と電話を切りました。



「お試し 1,000 円と宣伝しながら、4ヶ月継続、7 日前にキャンセルしなければ、5,000 円で自動継続」というのは、この企業の巧妙な詐欺のようで、後味の悪い印象が残りました。

皆様もよく説明を聞いてから決断して下さい。

これは世に言う「ダークパターン」ではないか。

ダークパターンとはどのようなモノなのかネットで調べると、国民生活センターの解説があったのでご紹介します。

ダークパターン(Dark pattern)は、主にウェブサイトなどで、ユーザーを騙すために慎重に作られたユーザーインタフェースのことである。認知バイアスを利用して、ユーザーが思っているよりも多くの時間やお金を使わせる。または注意を払うように設計されている。

① ユーザーにより多く消費させる:

ダークパターンによって、ユーザーは不必要なものや、必要以上の量を購入してしまう。あるいは、必要のないのに定期購入(サブスクリプション)してしまう。または、ユーザーが退会することを妨害する。

② ユーザーからより多くの情報を引き出す:

ダークパターンによって、ユーザーの個人情報や本来提供する必要のない情報まで企業の手に渡ってしまう。

③ サービスをより中毒性の高いものにする:

ゲーミフィケーション(ゲーム的要素でユーザーがもっと挑戦したくなるような施策)などによって、ユーザーがサービスなどを必要以上に使うように仕向ける。逆にいえば、企業が前述のような目的を持って、目的達成のためにさまざまな施策を繰り返していくことで、ダークパターンが生み出されてしまっている、ということが出来ます。

④ もちろん悪意を持ってダークパターンを使っている企業・組織は論外ですが、そうでない企業であっても、前記の目的を達成しようとして企業努力を繰り返すことによってダークパターンが生み出される側面もあるといえるのです

個人レベルでの取組:

まず、個人としてですが、ダークパターンに騙されないためには、「ダークパターンが存在することを知る」ことがスタート地点となります。ダークパターンは巧妙に作ってあるため、それによってつい買ってしまった、ダークパターンの存在を知らないと「自分が悪かった」と考えてしまうかもしれません。

特にスマホなどの操作に慣れていなかったり、サービス自体のしくみがよく分からなかりするとき、この傾向は顕著となります。ダークパターンというものがあることを認識することがまず必要です。

さらに、ダークパターンに具体的に対処するには「一呼吸置く」ことが重要となります。ダークパターンは、前述のような行動経済学の知見に基づいて「人がついやってしまうこと」を利用しています。この「ついやってしまうこと」は、我々の論理的な思考の前に、感情として立ち上がってきます。ですので、この感情に左右されず、落ち着いて考えることでダークパターンから逃れることができるのです。

* 皆様は大丈夫と思いますが、私がひっかかりそうになりましたので、皆様にお伝えします。

完



2025年3月13日 笑楽日塾 塾会 報告

期日 2025年3月13日(木) 17時~19時20分

会場 蕨市内 秘密の場所

出席者 八木、先崎、吉田、内田、星、新井、高木、南、清藤、荒井 10名

欠席者 菊地

今週に入って寒さが和らいできました。
暖かさにつられて、自然とお花見の話題が出る頃になりました。

1. 八木さんが編集して下さった「笑楽日塾記念誌 7号」が完成し配布された。
塾生の豊富な人生経験や悔しい思い出等が素直に語られた「シニアの風」は読み応えがあり、外部の方が読まれても一級品と認められるのではないかと思います。

2. 記念誌 7号は一冊@3,300円で手渡された。
原価は次の通り。

試し刷り印刷代	3,302円
10部印刷代	28,466円
合計	31,768円
販売金額	33,000円
差引き	+1,232円(塾の会計へ繰入れ)



3. 今後の予定
監査会 4月4日(金)10時
わらびネットワークステーション
通常総会 4月17日(木)17時~
秘密の場所

4. 令和8年の活動について

- (1) お花見計画

期日:4月5日(土)

場所:蕨市民公園

(蕨市の桜祭りは3月30日(日)が予定されています。)

3月30日は、中央一丁目旭町町の餅つき大会が5年振りに開催され、塾生(吉田さん、先崎さん、内田さん、荒井)がそのお手伝いで、都合がつかない。

4月5日では葉桜になってしまうかもしれませんが、陽春のまぶしい日差しを浴びて、八木さんが用意して下さる懐かしのフォークソングなどを聴きながら、厳しかった冬を無事に乗り越えて温かい春を迎えられた喜びを少しのお酒を戴きながら8年目を迎えた笑楽日塾と自分のこれからについてゆっくりと語り合いながら今年も楽しいひとときを過ごしたい。

(2) 定例塾会

毎月第3木曜日に、国内外の出来事への健全な批判を含む自分の意見を主張する。社会のひずみ、地元の不活性化、惰性的な市政、議会への健全な批判と提案等を思いつきを含めて意見交換してゆく。しかし、ギシギシした雰囲気ではなく、気軽なのんびりした気分転換を含んだ塾会を目指す。

(3) 毎月「笑楽日塾便り」を発行する。その中に塾生の人生経験を語る「シニアの風」を掲載する。

(4) 時にカラオケで気分転換する。

以上





「シニアの風」

(順番制で行います。4月号は 星 ですので準備の程、宜しくお願い致します。)

「年寄りが心配していること」

塾長 荒井 貞夫

もうすぐ春です。子ども達も春休みを迎えてウキウキしている事でしょう。一方、年寄りはどうか。何しているか。

人口減少、地方の衰退、お国の膨大な借金、高齢の独居老人の急激な増加など老い先短い私が心配してもどうにもならないが、少しでも安心出来る世の中になる事を願っている。世界に誇れる明るい未来が見える日本を政治家に、官僚に示していただきたい。



世界に目を向けると、ウクライナ戦争の終わりが見えるかと期待したが、3月1日朝のテレビでトランプ、ゼレンスキー会談の破談の原因を作ったバンス副大統領などの発言を観ていると、戦争を終わらせようとする良心と善意に基づいた会談ではなかった。

私は海外で多くの難しい契約交渉をやって来たが、どうしてこの場面であんなに激高して仕舞うのか、芝居して怒っている振りをして、ぶちかまして、もう後がないよと、相手をびびらせようとしたのか、それで交渉がまとまると思ったのか、私には、アレはトップが取るべき態度、発言とは思えない。

ゼレンスキーは何故通訳を介して交渉しなかったのか。通訳の時間に考えをまとめる事が出来たはずだ。私は難しい契約交渉にはインドネシア人の秘書を使った。相手がインドネシア語で何を要求しているのかは分かるが、秘書が英語で通訳してくれている間に、次の手、説得の言葉を探す貴重な時間が取れるのだ。

二人ともリーダーとしての素養が足りない。権力が無くなったら、惨めな思いをするだろう。これでウクライナ戦争が長引いて、困るのはウクライナ市民だ。これからの世界は米国の強さに頼ることは出来ない事が分かった。

最初に3月1日の出来事を引き合いに出したが、私が話したいのは私に忍び寄る老いを追い払う体力を付けることの他に日本国の将来の事だ。

人口が益々減って、インフラは50年以上経って更新時期を迎えているが、少ない人口と予算でどうやってカバーしてゆくの、国民が背負わされている膨大な借金をどうやって返していくのか。



ゴルフで田舎へ行くと衰退した部落が目につく。耕作放棄地がいっぱいある。野放し状態の雑木林は葛のツルに絡まれている。私の実家近くでも竹藪は手入れされていない。石破さんは地方創生、美しい日本、楽しい日本を唱えるが、地方は衰退するだけだ。予算の無駄遣いだ。

地域起し協力隊というのがあちこちにあって、地域の活性化に取り組んでいるが、成果は乏しい。一時的には目立つが長続きしない。そこに仕事がないからそこで生活出来ない。限界集落とか言う言葉があるが、地方の大きな町でも衰退している。若者はより良い機会と仕事を求めて都会へ出て行ってしまふのだ。

年寄りが日々気になる事を心配しても、どうにもならないが、私が生きている内に、少しでも明るい日差しが注ぐような日本国になって欲しい。そのためにはやっぱり確立した目標を示せる政治家、リーダーが必要なんだ。

老後は思い通りにはならないものと分かっている。ゴルフをやっているとよく分かる。昔出来たスイングが出来ないのだ。体全体のバランスが崩れている、感覚が衰えている。それでも、ほぼ毎日練習に励む。スイングする度、同じミスをやってしまう。昔はこんなことはなかったのにと悔やみながらも、若しかしたら、明日は良くなっているかもと期待して、また、早朝に出かける。筋力が落ちないようにほぼ毎日 Gym で鍛えている。

歳とって、耳が聞こえにくくなって好きな音楽を普通に楽しめない。旅も酒も同じ。「今の内にやれる事があったら、やった方が良い。老後にやろうと思っていても、老後になると出来ないことが多すぎるよ」と60歳半ばの現役で仕事をしているゴルフ仲間に語っている。私は出来ないことが増える中でも、自分で出来る事をさがして、諦めずに取り組んでいるつもりだ。

今、自分の人生をふり返れば、高校のクラスメートはもう半分も残っていない。みんなあの世へ行ってしまった。誰にも苦しい時期があった。それを乗り越えてきた。今、思うのは、自分は自分のままで良い。不器用な自分のままで良い。人に対しても、世の中に対してもと思う。

初心忘れずに。

笑楽日塾は想像以上に発展しました。何処にでも自慢できる集団になりました。これからも「集まって楽しい居場所づくり」という初心を忘れずに、自分の内心ではいっぴいの自慢と誇りを持って、外では初心を忘れずに振る舞って行くつもりです。

塾生の皆さん、私がヨタヨタしていたら、手を貸して下さい。



八木 守

3月です。

日本では旧暦3月を「弥生」と呼びます。気温の変化が激しい時季ですが、3月になると寒さが少しずつ和らぎ、春の気配を感じる日が増えてきます。そんな3月の和風月名は「弥生」がよく知られていて、その他にも3月の異称はたくさんあります。

なぜ「弥生」と呼ぶのでしょうか？

「“弥生”の語源は、“木草弥生月(きくさいやおいづき)”が縮まったといわれます。“弥(いや)”はますますという意味ですから、草木がますます生い茂る月ということらしいです。

旧暦の時代は、弥生以外にも3月の異称がたくさん使われていたそうです。詳細はウエザーニュースから抜粋してみました。奥の深い言葉がたくさんあるのには感服しました。

【禊月】(はらえづき・はらいづき・けいげつ)

古くは、3月3日の「上巳(じょうし)の節句」に禊(みそぎ)を行いました。禊は、水で身を清め、罪やけがれをはらうことです。「禊」という漢字は、「はらう」とも読みます。そこから、3月を「禊月(はらえづき・はらいづき・けいげつ)」と呼ぶようになりました。この「上巳の節句」が、雛祭りの原型だといわれます。

【桃浪】(とうろう)

旧暦の3月は、桃の花の盛りの時期です。そこで、「桃浪(とうろう)」という異称もつきました。桃は、ひとつの枝に、びっしりと花を咲かせます。その枝が幾重にも重なるように咲き誇る様子を、波にたとえたのでしょう。「浪」は、大きな波をあらわす漢字。華やかな情景が目浮かぶ月名です。

【竹秋】(ちくしゅう)

旧暦3月頃、竹の葉は、まるで秋の黄葉のように黄ばんできます。そこから、この時期を「竹秋(ちくしゅう)」と呼び、3月の異称としても使われるようになりました。竹の葉が黄ばむのは、筍(たけのこ)を育てるために栄養をまわすから。

【花つ月】(はなつづき)

「花つ月」は、花の月という意味。この場合の「花」は、桜をさします。旧暦3月は、いよいよ桜が咲き始める時期。ほかにも「桜月(さくらづき)」「花見月(はなみづき)」「花月(はなづき)」など、桜にちなんだ月名はたくさんあります。桜の開花時期は年々早くなる傾向ですから、現代の3月にも当てはまりそうですね。

【夢見月】(ゆめみづき)

桜のことを「夢見草(ゆめみぐさ)」ともいいます。夢のようにはかなく散っていくことから、この名がつきました。夢見草が咲くので、旧暦 3 月を「夢見月(ゆめみづき)」ともいいます。つまり夢見月も、桜にちなんだ異称というわけです。今では、桜といっしょに夢を見る月と考えることもできるかもしれません。

【佳月】(かげつ)

「佳月(かげつ)」は、「嘉月」とも書きます。名月という意味でも使われますが、よい月という意味で、3 月の異称にもなっています。草木が茂り、桃や桜が咲き、春たけなわの旧暦 3 月は、まさしく佳月といえるでしょう。ですが、生き物が動き始め、春の息吹が感じられる現在の 3 月も、よい月といえるのではないのでしょうか。

【春惜月】(はるおしみづき)

旧暦では、1 月から 3 月までが春ですから、3 月は晩春にあたります。過ぎ行く春を名残惜しく思う気持ちは、今も昔も変わりません。旧暦の時代の人々が、3 月を「春惜月(はるおしみづき)」と呼んだことから、その心情がうかがえます。

春をあらわす素晴らしい言葉ですね。なにか現代の気ぜわしい日常から、はんなりとした気分になりますね。もっとシニアはゆったりとした日常を楽しみたいものです。

以上

*今、ハマっている水彩画。3月に描いたものをお届けします。

季節は春ですが、雪をテーマとして描いたハガキサイズの2枚です。(色付けに苦しんでいます)



雪の中の加仁湯民宿



雪の中の六傘地藏